

湯 粹 かい 会



質問者 加藤 昭嗣 議員

・人口減対策について
・マイスター（職人）制度の創設や
産業の保護・育成について

湯沢市議会
YouTube
チャンネル
会派代表質問の動画を
ご覧いただけます。



質問 新年度予算のうち、人口減対策に係る新規事業について伺う。

【答弁】人口の東京一極集中の是正および地方の担い手不足対策として、国の政策に沿った移住支援金を交付する「移住・就業支援事業」と、本市が独自に行う事業として、都市部へ本市の魅力を発信し、当地域への関心を醸成することにより関係人口の構築を図る「ふるさと交流促進事業」を行う。

質問 出生率が伸び悩んでいる要因と改善に向けた取り組みを伺う。

【答弁】未婚化・晩婚化など、結婚行動の変化のほか、子育てや教育に係る経済的な負担が大きいが主な要因と考えている。現在、結婚や子育てに関わる補助金制度などの支援を行っているが、今後、経済的な支援のほか、第2子以降の出生行動に影響が大きいとされる出産後の悩みや孤立による育児不安などを解消することで、安心して出産・子育てができるよう、切れ目のない支援体制を構築していく。

質問 宝島社が発行する月刊誌「住みたい田舎ランキング（東北エリア）」で本市は「自然の恵み部門」で第2位、「子育て世代が住みたい田舎」部門第7

位、「若者世代が住みたい田舎」第8位、さらには「シニアが住みたい田舎」で第9位にランクインしているが、この評価を今後の移住・定住の施策にどう結び付けていくのかを伺う。

【答弁】国定公園や豊富な温泉とジオパーク、歴史ある文化や祭りや伝統工芸、名水の力水と里山や水田などの保全活動、さらには自治体SDGsへの取り組みが高い評価を受けたと考えている。これらの大切な資源は、全国に誇れる魅力であり、多くの人に本市を知ってもらえるよう広報紙やHP・SNSなどで

【答弁】雄勝地域振興局と共催で実施している企業博覧会を通じて、事前アンケートを基に各生徒が希望する職種

情報を発信し、希望者に選ばれるまちとして移住・定住の施策を推進していく。

質問 市内高校生の就職状況について伺う。

【答弁】平成30年3月時点、ハローワーク湯沢管内の高校の卒業生538人のうち、進学者が7割、就職者が3割であり、就職者のうち地元が4割、地元以外の県内が2割、県外が4割となっている。

質問 希望する職種の把握と支援体制について伺う。

【答弁】希望する職種の把握と支援体制について伺う。

を把握し、その職種の出展企業ブースに訪問できるように対応している。

質問 雇用のミスマッチの現状と対応について伺う。

【答弁】高校生へのアンケートでは、事務やIT系、建設関係の人口が高いが、有効求人倍率では事務やIT系は低くなっている。一方で、建設関係では高校生の人気が高いにも関わらず、求人倍率は高い状態となっており人手不足が発生している。引き続き情報収集していく。

質問 市独自のマイスター・職人制度の導入を検討すべきでは。

【答弁】本市は伝統工芸の大変盛んな地域であり、職人の高度な技術を継承し地域の経済発展、さらには全国への発信が必要であることから、県の伝統工芸士認定事業の動きと併せて検討していく。

質問 後継者育成の観点から地域おこし協力隊の位置付けや期待について伺う。

【答弁】協力隊として川連漆器の製作に従事し、そのまま定住している人もおり、伝統を継承するということも視野に入れて支援していく。

質問 地域を愛する心を醸成するため、体験学習や産業に触れる機会を継続していくべきと考えるがどうか。

【答弁（教育長）】現在ふるさと教育、キャリア教育推進事業を実施しており、今後も郷土を愛する心と湯沢の未来を担う人材の育成を図っていく。